



うたづ 議会だより

2018
第68号
8.1
香川県宇多津町



～古代米の田植え～

商工会青年部と公募で集まった親子や短大生が、池田さんの田んぼで古代米の田植え体験をしました。

子どもたちは泥んこになって楽しそうでした。



アロハ議会

応援しようでえ～！
うたづっ子

元気ななかま

町政を問う

「宇多津中 生徒会」

「民謡クラブ」

6

15

16

空き家の調査、始まる



平成30年第2回定例会が6月5日から12日まで8日間開かれました。今年もクールビズと7月開催の「アロハナイト」をPRするため、議場内では出席者全員がアロハシャツなどを着用しました。議案3件、報告2件、承認2件、諮問1件、陳情1件を審議しました。付託案件は各常任委員会で慎重に審議し、本会議においてすべて可決、同意・採択されました。なお、一般質問は6日と7日に行われ論戦が繰りひろげられました。

おもな内容

年度内に支出が終わらないと見込まれるものを、翌年度に繰り越して支出できるように、その財源の内訳などを計算したものが正式には、「繰越明許費繰越計算書」と言います。

平成29年度一般会計 繰越明許費

(1億7202万円)

昨年度から工事を進め6月末に完了予定の定池さだいけ(鍋谷)災害復旧事業、7月末に完了予定のマイナンバー制度運用支援業務(関連記事は③ページ)、また、5月にオープンした世代間交流センターの工事費、都市再生整備事業(新都市の公園や遊歩道、トイレ改修などの計画)など4事業費を繰り越す。

平成29年度下水道事業 繰越明許費

(1200万円)

一昨年水害に遭った宇夫階地区の水路改修工事と中讃流域下水道負担金を繰り越す。

平成30年度一般会計 補正予算

(750万円)

・ 空き家実態調査・地域活性化プロモーション事業費
 町内の空き家の実態調査を行い、再生・解体などに分類する。(関連記事は③ページ)

太鼓台補助金

(500万円)

毎年、宝くじの売り上げから自治総合センターのコミュニティ助成金として交付される。今年度は田町と新開太鼓台に修理費用として、それぞれ250万円ずつ支払われる。

陳情

香川短期大学附属幼稚園の借地

平成13年から浜八番丁の町所有地を借りて幼稚園を運営してきたが、その借地を譲渡してほしいとの陳情があった。

本会議 議員の賛否

○ 賛成 × 反対 欠 欠席（議長は、賛否同数の時のみ可否を決定する）

主 な 審 議 案 件		港	大黒	井上	西本	濱中	柴村	宮本	大松	青木	藍川
承認	宇多津町税条例の一部改正（4月施行）	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
	宇多津町国民健康保険税条例の一部改正	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
報告	平成29年度宇多津町一般会計繰越明許費繰越計算書	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
	平成29年度下水道事業特別会計繰越明許費繰越計算書	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
議案	平成30年度一般会計補正予算（第1号）	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
	宇多津町税条例の一部を改正する条例	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
	宇多津町介護保険条例の一部を改正する条例	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
諮問	人権擁護委員の推薦（川原 紀子氏）	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
陳情	香川短期大学附属幼稚園の借地の譲渡	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○

空き家の実態調査

委員会審議

マイナンバー制度は

- Q** マイナンバーカードの発行状況は。
A 現在1,700枚程度。
- Q** マイナンバー制度運用支援業務とは。
A 情報の機密性や安全性を確保し、できるだけ早く普及を進める事業。

総務課

空き家の調査

- Q** どのように調査するのか。
A 町内の空き家を訪問し、建物の外観目視による老朽度・不良度判定をし、5段階評価する。
- Q** その判定は誰がするのか。
A 専門の業者に依頼する。

まちづくり課



空き家を改装し、デイサービスなどに利用している

空き家の調査後は

- Q** 調査した後の対応は。
A 改修して利活用できるものは所有者に空き家バンクへの登録依頼をしていく。倒壊の恐れがある場合は地域整備課と連携し、除去対象物件として所有者に連絡する。

まちづくり課

第8回全国コンパクトタウン議会サミット



観光で輝くまちづくり

5月22日～23日、大阪府泉南郡田尻町での「第8回全国コンパクトタウン議会サミット」に参加しました。第1部は、元大阪観光大学教授の中尾清先生に『観光で輝くまちづくり』をテーマに基調講演をしていただきました。政府が掲げる『観光立国 日本。2020年に訪日客を2000万人から4000万人に…』。観光は、我が国の力強い経済を取り戻すための極めて重要な成長分野の柱です。経済効果が大きいのが魅力で、簡単に説明すると「観光消費は身近な海外貿易」なのだそうです。訪日客の購入拡大のため、消費税の免税手続きをさらに簡素化する動きもあります。急速に成長するアジア諸国をはじめとする観光需要を取り込むことにより、地方の活性化や雇用機会の増大などに効果の期待が大きいというお話でした。

いくつかのグループに分かれてテーマについて話し合い、一通り意見が出たら一人だけが残し、後のメンバーを入れ替える。

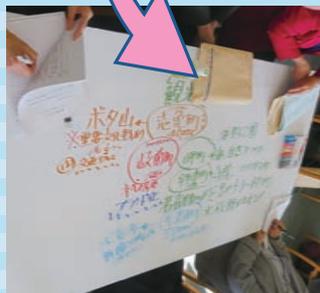
町の観光資源を見つける

第2部はワールドカフェ方式で『観光資源の見つけ方』をテーマに、各議会の議員が班に分かれて各町の観光資源について話し合いました。観光とは

「その地域の光を磨き示し公にすること」という追加講義もあり、「我が町の光とは何か」を考えながら他町の議員から見た本町の特徴を聞くこともできました。どのように観光を考えるのか、喜んでもらえるモノは何かを考えるのが重要な視点だと感じました。また、小さな町の議員が集まることで繋がりが広がり、どのようにすれば政策の考えが深まるのかも考えさせられました。



ワールドカフェのようす



あるグループのメモ

関西国際空港

2日目は午前のみで、関西国際空港の現地での説明会でした。建設当時の話や災害対策について、空港内を移動しながら説明をしていただきました。今後ますます増加が見込まれる訪日旅行者。我が町独自のアイデアで観光スタイルを見出すことが観光政策の原点だと感じました。

町政を問う

(一般質問の件名)

西本 祐子	・宇多津でも中学生の国際交流を ・ダンボールコンポスト配布を中止した理由は
濱中 保夫	・海ホタル防護柵と管理道の補修 ・ICT教育のためにデジタルテレビの設置を
宮本 隆	・広域コミュニティバスの運行は ・通学路の危険箇所・死角の再確認は
大松喜次郎	・小中学生の問題行動の対策は ・生活支援体制整備事業の周知を
青木 義勝	・子どもの安全 不断の決意で ・祖父母手帳で「子育て」を応援
藍川佳津樹	・景観条例の実効性 ・役場の組織のあり方の検証・再考は
港 一紫	・鴨田川改修工事 ・宇多津町における犬猫対策は
大黒 一也	・重要な通信手段を適切な場所に ・生活道路の安全対策は
井上 弘治	・本町の人口増加の検証 ・スポーツコミュニティへの取り組み

「知っとな」part2

「茅の輪くぐり」は6月30日に全国の神社などで行われている民俗文化の一つです。「茅の輪」はチガヤや葦などを束ねて作るもので、蛇の形を模して輪になっています。輪をくぐることで正月から6月までの半年間の『みそぎ』をして、無病息災と再生を祈願します。宇多津幼稚園では毎年、文化財保護協会の皆さんが直径2メートルの「茅の輪」を作ってください、親子で「茅の輪くぐり」をしています。もう15年ほどになりますが、幼稚園で行われているのは珍しいそうです。文化財保護協会の奥村さんや宇夫階神社の宮本宮司の説明を聞いた後、左・右・左と8の字を描くように3回ずつくぐります。子どもたちはお家の人と手をつないで足を踏ん張り、大きな茅の輪を上手にまたいでいました。ある保護者は「こんな行事が（日本に）あることは幼稚園に通うまで知りませんでした。貴重な体験ができました。」と話してくれました。



研修報告 (総務建設常任委員会)

地域と共生するYKK AP

YKK AP(株)八代工場では、熊本県下や八代市で行われるイベントに積極的に参加し、花の苗の無料配布などを行っています。また、小学校に絶滅危惧種の「メダカ」や樹木の贈呈をしているほか、緑のカーテン応援プロジェクトで地域環境保全にも貢献しています。



YKK APで説明を受ける

熊本地震で学んだ防災訓練の重要性(八代市)

八代市は震度5弱だったため、職員は自主的に参集し、ばらつきがありました。その理由として、危機管理課以外の職員に「危機管

理マニュアル」を周知徹底できていなかったことが挙げられます。また、小規模避難所が多すぎて、職員だけでは対応しきれませんでした。広報車や防災無線は雑音などで聞きづらいという苦情が多かったため、8月からテレビのデータ放送「デポタン」でも災害情報の告知を始めるそうです。



地震の爪痕が残る被災地

起業の支援や農地の紹介も(八代市)

事務やIT関連の企業を誘致するために、工場建設用地取得や雇用奨励の補助、IT関連の家賃補助、資格取得の助成金などの補助制度があります。また「八代未来チャレンジ企業創出支援事業」として、県経済をリードすることが期待される企業を認定・支援しています。



西本 祐子 議員

宇多津でも中学生の国際交流を

ぜひ、中学生の派遣先の交流から始めたい／町長

問 宇多津中学校ではニュージーランドに中学生を派遣しているが、受け入れはしていない。坂出市や丸亀市では中高生を対象とした短期留学生の派遣と受け入れを毎年交互に実施し、相互交流を行っている。本町でも国際交流を深めるために、中学生がホームステイ

しているニュージーランドなど、海外からのホームステイを受け入れてはどうか。

谷川町長 丸亀市や坂出市などは海外の都市と姉妹都市提携をしている。町では平成12年から中学生の海外派遣事業を開始し、韓国、オーストラリア、ベトナム、

再質問 宇多津町の「国際交流協会」はどうなっているのか。

谷川町長 「町家とおひなさん」で県の国際交流協会の物販を手伝うなど、地道な活動はされているようだ。今後は相互交流や海外派遣事業を生かした取り組みを考えたい。

ダンボールコンポスト配布を中止した理由は

中止は性急だったので、準備でき次第、再開する／住民生活課長

問 ダンボールコンポストで生ごみを処理すれば、可燃ごみの水分を減らすことができる。燃料も節約でき、堆肥は家庭菜園などで使えて一石二鳥なのに、なぜやめたのか。今の焼却炉を何とか使い続けるためにも生ごみの水分を減らす努力を

するべきではないか。ほかに、ごみを減らす対策は行っているのか。

浜田住民生活課長 平成23年9月から配布していたが、27年ごろから新規申し込みがなくなつた。学校や団体へも働きかけたが件数が伸びていき

びなかつたため、無料配布を中止した。この決定はいささか性急だったので、お詫びして、準備でき次第再開したい。

谷川町長 担当課で決定し、私も知らなかつた。継続していき



ダンボールコンポスト研修会



濱中 保夫 議員

海ホタル防護柵と管理道の補修

県に問い合わせ、現地調査をする／地域整備課長

問 沖杵塩田2号護岸のコンクリート舗装されている管理道路の防護柵に錆が発生している。錆が進むと破断や怪我也考えられ非常に危険である。また管理道の上に塗られた塗装が剥がれている。これらの補修は可能か。

浅野地域整備課長

当該施設は県管理の施設なので県に問い合わせをする。防護柵においては、昨年冬に現地で把握確認し、今夏に一部区間において再塗装（試験施工）を行う予定である。また、県からは舗装（塗装）の損傷状態の把握のため現

地調査を行い、町と協議し対応したい旨の回答があった。

ICT教育のためにデジタルテレビの設置を

中学校には配置済み、両小学校にも設置したい／教育次長

問 効果な教育指導のためにはICT環境の整備が大切であり、日常的にICT機器を授業で利用しやすい環境作りが重要である。テレビモニターなどを教室に配置し、その他の周辺機器パソコンタブレット・実物投影機・ブルーレイレコーダーなどの付属品も必要。そこで宇多津北小・宇多津小にデジタルテレビの設置を求める。

高瀬教育次長 ICT教育の環境整備方針が通知され、普通・特別教室に一台の大型提示装置と実物投影機の

整備が求められ、町では昨年度中学校にすべて配置した。両小学校への配置は、今後財政との協議を進め、できるだけ早い時期に設置したいと考えている。

型提示装置と実物投影機の

型提示装置と実物投影機の



宮本 隆 議員

広域コミュニティバスの運行は

交通施策は重要で今後とも検討・努力／まちづくり課長

問 高齢者の運転中の事故が多く発生し、免許証の返納もお願いしている。

地方は公共交通が少なく、日常生活に自動車が必要だと多くの高齢者が言う。町が独自にバスを運行するのは厳しいと認識しているの、坂出市と丸亀市のバス

が町内をもう少し通り、両方のバスを接続し乗換ができる路線変更に両市と協議していただきたいが。

濱田まちづくり課長

高齢化社会を迎える中で高齢者の方々に不自由なく生活していただくためには、交通

施策は重要であると考えている。広域的バスの運行に関わることで、香川県に粘り強く働きかけていき

たい。また、地域ごとのニーズなどの分析・把握を行い、今後とも検討・努力していく。

再質問 両市と協議していただくことの検討は。

谷川町長

関係部署と協議して、調査・研究させていきたい。

通学路の危険箇所・死角の再確認は

今年度学校支援ボランティアを募集予定／教育次長

問 通学路で登下校時には犯罪や事故に巻き込まれかねないリスクが潜んでいる。全国で事件・事故が発生しているし、通学路での事件・事故が後を絶たない。

新潟で下校中の通学路で、痛ましい事件が発生している。事件発生後、宇多津町は通学路での事件・事故を

防ぐための危険な場所や死角などについて、再確認や安全確保に向けた取り組みは行ったのか。

高瀬教育次長

宇多津小学校は事件後の5月に再点検を実施、北小学校は4月と各学期末の年4回実施している。今年度は「地域学校

協働活動推進事業」を実施し、10月ごろに学校支援ボランティアを募集する予定である。

再質問

子どもSOSの所にマニュアルは配布したのか。南部の設置箇所などについて、検討したいとの答弁だったが、検討はしたのか。

今津生涯学習課長

今からマニュアルの作成を実施する。設置箇所はこれから学校の先生やPTAと打ち合わせし、再度調査・確認し検討したい。



大松喜次郎 議員

小中学生の問題行動の対策は

問題行動の原因を追究し、対策している／教育次長

問 文科省の平成28年度調査によると、暴力・いじめ・不登校のいずれも小学校6年から中学校1年にかけて発生件数が大きく増加している。これは、いま教育界で問題にされている中一ギャップ現象が現れているのではないかと推測する。これらの問題行動の対応策

・予防として学校における日常の取り組みはどうなっているのか。

策委員会」を開催し、学校生活への復帰を支援している。暴力行為対策としては、県よりスクールサポートチームを配置しているほか「宇多津町サポートチーム連携協議会」で学校内外の生活指導上の問題解決に向けて協議している。

再質問 小中学校間で入学前と後で問題点を話し合っているのか。

高瀬教育次長 いじめ対策は「子ども支援委員会」などを定期的に開催し、情報の共有を図り、対応している。不登校対策としては、中学校では毎月「不登校対

策委員会」を開催し、学校生活への復帰を支援している。暴力行為対策としては、県よりスクールサポートチームを配置しているほか「宇多津町サポートチーム連携協議会」で学校内外の生活指導上の問題解決に向けて協議している。

高瀬教育次長 町教育連携協議会において中一部会を設け、小中学校の先生が課題解決に向けて協議している。

生活支援体制整備事業の周知を

平山地区でアンケート調査を実施した／保健福祉課長

問 日常生活上の支援体制の充実・強化および高齢者の社会参加の促進を一体的に図っていくことを目的とする「生活支援体制整備事業」がある。現在、平山地区をモデル地区として進めているが、どのような取り組みをしているか。また、他地区の住民がこの事業のことを知らないと思われる。

今後、どのような周知手段を考えているのか。

る。まずは、まんでがん体操やふれあいいきいきサロンの活動先や自治会などの各団体に向いて周知していく。

木下保健福祉課長 活動報告会は12月か1月に実施したい。2か月に一度の全体会の間に、生活支援コーディネーターと構成員とで地域に向いて活動を行い、今後の取り組みを協議していく。

木下保健福祉課長 「ちょっとした生活の困りごとに関するアンケート調査」を実施し、ニーズの把握を行った。今後、アンケート結果から地域での生活課題を分析し、助け合いの仕組みを考えていくこととしてい

る。「生活支援体制整備事業」がある。現在、平山地区をモデル地区として進めているが、どのような取り組みをしているか。また、他地区の住民がこの事業のことを知らないと思われる。

る。まずは、まんでがん体操やふれあいいきいきサロンの活動先や自治会などの各団体に向いて周知していく。

再質問 平山地区の取り組みを発表する「地域支え合い活動報告会」をいつ開催するのか。今後、事業をどう進めていくのか。

木下保健福祉課長 活動報告会は12月か1月に実施したい。2か月に一度の全体会の間に、生活支援コーディネーターと構成員とで地域に向いて活動を行い、今後の取り組みを協議していく。



青木 義勝 議員

子どもの安全 不断の決意で

問題箇所マップや改善策など公開を考えたい／教育次長

P(Plan)計画→D(Do)実行→C(Check)評価→A(Act)改善の4段階を繰り返すことで、業務を継続的に改善する

問 登下校中の子どもたちが犠牲になる悲惨な事故や事件が発生している。国からの「通学路交通安全プログラム策定」は、関係機関が連携し児童生徒が安全に通学できるよう定期的に総点検し危険箇所の発見と改善などPDCAを繰り返すことで通学路の安全向上を求めている。関係機関との協議内容や、特に危険箇所マップなど、情報公開し通学路の安全確保を図るべきでは。

高瀬教育次長 平成27年7月に通学路交通安全プログラムを策定した。部会による点検は年2回実施し、問題箇所の発見や対策、検討、改善を繰り返し継続的に実

施することが大切と考える。改善箇所は学校に報告しているが大きな変更以外は公表していない。保護者の安心感につながるので協議し、H・Pやメールなどで公表する方向で考えたい。また、通学路などの死角になりやすい場所には20基の防犯カメラを設置し、保護者へのメール配信で注意喚起もを行っている。

再質問 事故の未然防止は不断の改善が欠かせない。児童の安全確保は学校だけでなく関係機関や地域、企業の協力も不可欠。子どもSOSの状況など児童の見守り体制強化に本町の決意は。

今津生涯学習課長 子どもSOSは、宇多津小校区で54カ所、宇多津北小校区で61カ所、合計115カ所の調査を実施し、壊れた看板や薄くなった文字、店舗の移動など、整備について教育委員会やPTAとも協議し、看板やマニュアル、マップ作成も実施する予定。

高瀬教育次長 今年度から地域コーディネーターを配置し、学校と地域が協働で子どもたちの成長を支える「地域学校協働活動推進事業」も実施。10月ごろ、学校ボランティアを募集する。企業の社会貢献防犯活動も研究したい。





藍川佳津樹 議員

景観条例の実効性

条例は規制ではなく、緩やかな基準／地域整備課長

問 法律や条例は、国民・

住民の権利・利益の保護と同時に、私権の制限をとまなうものもある。景観条例は、私権の制限が主となるため行政指導の判断が難しく実効性は薄い。近年空き

家問題に関わって、町内の

街並み景観の劣化に危機感を持つ二人としてたずねる。条例制定以来、行政指導の事例はあるか。また私権制限の見返り優遇制度を検討する考えは。

浅野地域整備課長

条例は町が魅力ある景観まちづくりを推進するために制定された。本町の基準は規制でなく、自発的・良好な景観を誘導するという意図が趣旨で、緩やかな基準とし、

従って制限に対する優遇措置はとっていない。

役場の組織のあり方の検証・再考は

課の設置は住民の利便性向上などを考慮している／町長

問 まちづくり課、地域整備

課、危機管理課などについて、その業務内容に疑問を感じている。まちづくり課は何でもありの業務になりかねない。地域整備課は下水道業務が編入され業務範囲が広がった。危機管理課は「身の丈行政」にそぐわない。

理して、限り有る人材を最大限活かし、能率的で効果的な行政組織を再構築して

は。

谷川町長

危機管理課は東日本大震災後注目される南海トラフ地震に備え、まちづくり課は少子高齢化、人口減少社会で地方の「まちづくり」が重要視され、地

再質問

危機管理課は町では本町だけ、本家武雄市はまちづくり部の下に建設や都市計画などの課組織で納得。しかし本町のまちづくり課はイベント屋の様相を呈し業務の趣意が危うい。

谷川町長

今の組織は当時の副町長を先頭に一年がかりで作り上げたもの。私の施策は常に住民のニーズ第一であり、住民がそれを望んでいたと考え、すべての施策を進めている。検証、再考となれば住民のニーズを聞く必要もある。



港 一紫 議員

鴨田川改修工事

県が整備計画を定めている／地域整備課長

問 梅雨の雨、梅雨開けてのゲリラ豪雨、台風と雨による鴨田川の増水の心配が出てくる季節になった。

この3年で若宮橋から南に数100メートルは改修工事がなされ私はなんとも言えない感動と今後の改修により増水に耐えうる川に

なると確信した。宇多津町として今後の鴨田川の改修工事の必要性、鴨田川の未来（鴨田川改修工事完了後の役割、期待値など）はどのうなのか。

浅野地域整備課長 当該河川は香川県が管理する二

川は香川県が管理する二

浅野地域整備課長

現時点

級河川であることから県に確認したところ治水安全度の向上のための河川整備を早急に実施する必要がある整備計画（大東川水系河川整備計画）を定めている。

で第一工区340メートルのうち約230メートルが完成、今後用地買収に向けて県と一緒に関係者と交渉を進めたい。

再質問

今後の鴨田川改修工事の予定、計画は。

工場の予定、計画は。

宇多津町における犬猫対策は

エサやり防止の掲示をしていく／住民生活課長

問 知識や心構えが十分でないまま安易に動物の飼育を始めると、途中放棄や不適切な飼育管理による周囲への迷惑や危害がおよぶ。

野良犬や野良ネコへの無責任なエサやり、住民間でのトラブルや感情的な対立を引き起こす事例が後を絶た

ない。

世界のほとんどの地域で依然として発生し日本国内への侵入の脅威のある狂犬病が発生する危険性を高めている。

今後の町の対策についてうかがう。

浜田住民生活課長

町の野

良犬についての苦情は以前より多少減少している。十楽寺や鍋谷および田町地区においては未だ出没情報がある。エサやり行為は粘り強く啓発や注意喚起に勤め、エサやり防止の掲示をしていく。

アクセスが集中することで、通常行えるはずの通話・通信ができなくなり、通信回線がパンクする状態。



大黒 一也 議員

重要な通信手段を適切な場所に

新たに設置可能かどうか、NTTと協議・検討する／危機管理課長

問 安否確認で有効な手段

は、災害用伝言ダイヤルの活用である。お金を入れることなく、輻輳対策で通信を遮断されることなく、通話発信のみができる。安否確認、ライフライン、などに非常に重要な通信手段である。災害発生時を想定し

て、計画的に適切な場所への設置を推し進めることが必要であると考えるが。

和田危機管理課長 指定避難所以外の緊急避難所に関する

しても災害時に使用する可能性がある。新たに設置可能かどうか、今後NTTと

協議・検討したい。

再質問 設置するのならば

の避難所か。使い方などをホームページなどに配信してみては。

和田危機管理課長 電話回

線のある、サポートセンタ

し、やすらぎプラザ、ユープラザ、キッズプラザ、あみのうら交流センターの5か所を考えている。訓練の時の写真を活用して広報、ホームページなどに紹介していきたい。

生活道路の安全対策は

生活道路の危険個所を調査・研究していく／住民生活課長

問 生活道路における歩行者や自転車などの安全な通行を確保することを目的とした、区域を定めた事故抑止のための時速30キロの速度規制というゾーン30がある。ほとんど設定されておらず、登下校時、その他時間帯にもスピードを出して通り抜けていく車両が目

つく。安全面として、古街エリア、通学路に対策をとるべき箇所があると思うが。

浜田住民生活課長 古街エ

リアは、道路中央部と宅地側で舗装材の色分けにより視覚的効果があり、ドライバーの注意喚起を促す構造である。ゾーン30指定は難

しい。生活道路の危険個所は警察や教育委員会、道路管理者と協議し有効な対策を調査・研究していく。

再質問 通学路での不審者の見守り活動を「宇多津町安全・安心まちづくりの会」という団体にも協力しても

らいたいが。

浜田住民生活課長 昼間は

下校時に防犯パトロールを実施している。こちらからは指示、決定できないので、役員会がある時に、このような提案があったという報告をさせていただく。



井上 弘治 議員

本町の人口増加の検証

転入促進と転出抑制の政策を充実していく／まちづくり課長

問 本町に住む日本人と外国人の増減を検証。平成25年4月。日本人17,762人、外国人226人で合計17,988人。日本人のピークが平成28年12月、日本人18,059人、外国人503人、合計18,562人。

答 現在、日本人17,868人、外国人546人で合計18,414人。本町の人口増加は日本人が増減、外国人の増により人口増加となっている事を政策課題とする。本町の考えを問う。

濱田まちづくり課長 日本人在住者は平成28年12月をピークに微減に転じている。原因は転出超過による社会減である。転入促進と転出抑制の政策を今後、さらに充実していくことが重要であると考える。

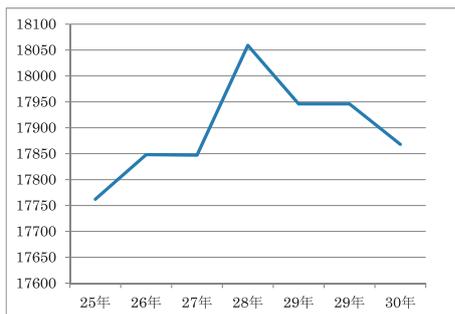
スポーツコミュニティへの取り組み

部員募集を進めていく／生涯学習課長

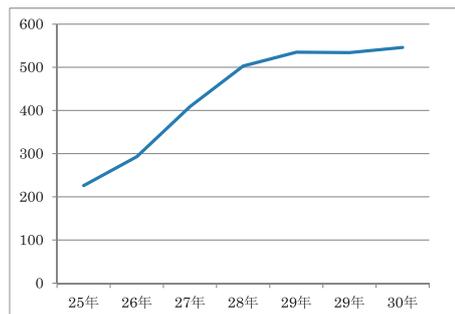
問 県体協の総会でスポーツコミュニティという言葉が発信された。この活動の輪を拡大させるために他の自治体では町のホームページ、ICT環境などを通じて募集など行っている。子育て世代の環境においては紙面の募集より効果が高い。本町も可能か。

今津生涯学習課長 近隣の自治体のホームページはスポーツ少年団のみか、体協独自のホームページに体協とスポ少の掲載をしている。まずはスポ少の団員募集のポスターを作成のち貼付する。町のホームページへの掲載についても、スポ少の一覧や団員募集について各

団の掲載の希望を聞きながら進めていきたい。



宇多津町の在住日本人 人数の推移



宇多津町の在住外国人 人数の推移

宇多津中学校の生徒会では、9人の役員が全校生徒の代表として学校行事の運営をしています。自分たちで計画を立てて体育祭や文化祭、生徒総会などの行事を行います。小学校の時の児童会経験者は4人います。児童会では先生方の指導のもと活動していましたが、生徒会では生徒中心。生徒の意見を大切にして自主的に活動しています。



大きな声で呼びかけていた、朝のあいさつ運動



生徒会に入った動機は？

- ・児童会に入っていたから
- ・先輩の姿がカッコよかったから
- ・中学生活で何か残したくて
- ・やりがいのある活動がしたくて

決められた仕事をするのではなく、生徒の代表としてみんなの意見を取り入れて計画を立て、より充実した学校生活をおくれるような生徒会活動にしたい。(生徒会長)

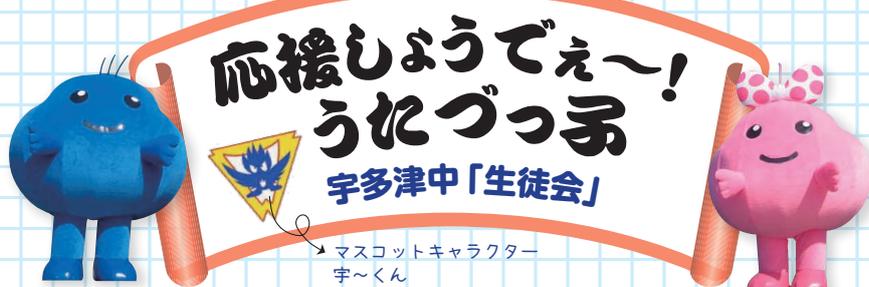
会長	しらいし あすみ 白石明日美 (3年)	ふしざわ いくと 藤澤 郁翔 (3年)
副会長	いなだ ふゆこ 稲田芙由子 (3年)	きうち けい 木内 京 (2年)
書記	おおむら みお 大浦 充央 (3年)	おおむら あかね 大村 茜絵 (2年)
会計	ふしい さき 藤井 咲妃 (3年)	たにおか ゆめ 谷岡 柚芽 (2年)
庶務	さいしゅう はるか 西条 遥香 (2年)	

楽しい？辛い？

- ・辞めたいこともあった。
- ・集まって話ができるのが楽しい。

これから取り組みたいことは？

- ・今回の西日本豪雨で被害を受けた方々に何かできることはないか(支援や寄せ書きなど)考えたい。
- ・週1回は部活動を休みにする。
- ・記念になるものを作りたい。
- ・芝生を植えたい。



マスコットキャラクター 宇〜くん

生徒会テーマ「誠心誠意〜何事にも気持ちを込めて〜」のもと生徒総会や体育祭、文化祭といった学校行事の企画運営を行うとともに、学校をより良くしようと日々活動しています。今は、あいさつ運動に力を入れ、朝早くから立哨を行っています。



宇多津中学校 生徒会顧問

ばらきたくや 茨木拓也先生

とにかく明るく積極的な生徒会の皆さんは、失敗を恐れず、日々前向きに活動しています。中学校生活を悔いなく送れるように、また「やってよかった」と思える活動にしてほしいです。

元 気 な な か ま ぐ り ー づ 紹 介

民謡同好会

私たち民謡同好会は、現在会員10名で、毎週1回中央コミユニティー分館で練習に励んでいます。長い方で40年、短い方で1年と民謡に魅せられた仲間ばかりです。地元の民謡をはじめ全国各地の労働歌や馬子唄、盆唄などを、先生の尺八と三味線の伴奏、会員の太鼓を交えて、楽しく一生懸命唄っています。特に「浜引き唄」は地元宇多津の塩田労働歌ですので、機会あるごとに皆さんに紹介しています。

また、秋の芸能祭をはじめ折をみて行事に参加させていただいています。入居の方や職員の方々と一緒に、一番の目標は、西讃地区五社中の会員約80名が一同に会する「春の民謡大会」で一年間の成果を披露することです。民謡はそれぞれの土地の素朴な生活の唄です。唄うことが楽しみで自分流に気楽に唄えるのが魅力です。皆さんも是非一緒に民謡を唄ってみませんか。

お問い合わせ

電話 4917254

(代表 鈴池幾馬)



第2回ミニ芸能祭で唄う

みなさんの声

宇多津太鼓台保存会



宇多津太鼓台保存会 会長 津谷 弘樹さん

宇多津太鼓台保存会は、太鼓台や獅子などを保有する町内自治会の集まりです。活動は、宇夫階神社秋季例大祭に花を添える獅子と太鼓台の安全のため、警備や警察の折衝や「太鼓台祭り実行委員会」による宇多津太鼓台祭りの開催。さらに、運行に関わる諸所の手続きなど、活動は多岐に渡ります。また、歴史文化の継承のため、勉強会も開催しております。

さて、文献によると、宇多津の太鼓台は文政8年（1825年）より約200年続く古い歴史と伝統を持ちます。周辺地域を見てもこれだけ長い歴史を持つ太鼓台はありません。荒々しくも勇壮な宇多津祭りですが、例大祭で豊漁豊作のお礼と無病息災を願い、力を合わせて奉納しております。



たくさんの人で賑わう秋祭り

あとがき

このたびの西日本豪雨では多くの犠牲者が出ましたことに謹んでお悔やみ申し上げます。また、被害に遭われた方々に心よりお見舞い申し上げます。

災害が起こるたびに「もっと早く避難すれば助かったのに」という話を聞きます。私たちの心には自分の身に危険が迫った時に「自分だけは大丈夫」「今回は大丈夫」などと、自分に都合の悪い情報を無視する『正常性バイアス』が働いてしまうという特性があります。一方で、近所の人から「早く逃げよう」と言われて避難して助かった人も多くいました。今回の災害を他人事にするこなく、今一度、避難場所や避難ルート、防災グッズなどの確認をしておきましょう。

(西本 祐子)

議会広報特別委員会

委員長 西本 祐子

副委員長 大黒 一也

委員 井上 弘治

委員 青木 義勝

発行責任者

議長 柴村 賢三